

文部科学省特別教育研究経費（研究推進）
「湖沼流域ガバナンスプロジェクト」平成20年度レビュー会議

2009年1月25日
環境総合研究センター長
中村正久

1. 会議の目的

本申請は、環境総合研究センターが県内の研究機関と連携して推進している文部科学省特別教育研究「持続可能な資源利用を可能とする湖沼流域管理のためのガバナンス向上に関する研究プロジェクト」（通称「湖沼流域ガバナンスプロジェクト」）の初年度の成果を、国内外の研究者や実務者による最新の流域ガバナンスの話題提供と幅広い議論を行う国際シンポジウムとして開催する。

2. 「湖沼流域管理プロジェクト」について

地球上の淡水の90%を占める静水システムの代表である湖沼は、3つの自然科学的特徴（長い滞留時間、流域の自然や人間活動からの集中的なストレス、複雑な湖内の相互作用）の故、その管理は非常に難しい。統合的湖沼流域管理(ILBM: Integrated Lake Basin Management)の概念は、静水システムの集水域を持続可能な形で管理していくために不可欠な流域ガバナンスの枠組みを提示するもので、2003-2005年にかけて世界の28の代表的な湖沼流域管理の経験を集約する目的で実施された国際プロジェクト”Managing Lakes and their Basins for Sustainable Use: A Report for Lake Basin: Sharing Lessons and Experiences from GEF and non-GEF Lake Basin Management Projects”の成果とその後の研究成果に基づいて構築された。その後、ILBMは湖沼流域の持続的な資源の利用と保全に不可欠な考え方であることが認められ、国際湖沼環境委員会（ILEC）を通して幅広く途上国の湖沼・貯水池の流域管理に広められつつある。

3. 本学におけるプロジェクト推進

ILBMがその汎用性を高め、世界の湖沼流域管理に広範に生かされるためにはその枠組みを更に強化する必要がある。また、それには(1)更に多様な湖沼流域管理の経験を集約する、(2)湖沼流域をめぐるガバナンス研究に他の分野のガバナンス研究の成果を反映させる、という2点が特に求められている。「湖沼流域ガバナンスプロジェクト」は、滋賀大学、滋賀県立大学、国際湖沼委員会の連携の下で運営されている「流域政策研究フォーラム」および国内外の研究機関、政府機関、国際技術協力・資金援助機関、NGO・CBOなどのネットワークを生かした研究推進活動として2008年4月より文部科学省特別教育経費の支援を得ることとなった。初年度である本年はとくに、フィリピン、マレーシア、インド、ネパール、ロシア、メキシコ、韓国などにおける研究対象流域が抱える問題、それらの問題に取り組むための流域管理の課題や展望をLake Briefと呼ばれる知識ベース構築の基礎資料に反映し、横断的な分析を進めている。

湖沼流域ガバナンスプロジェクト

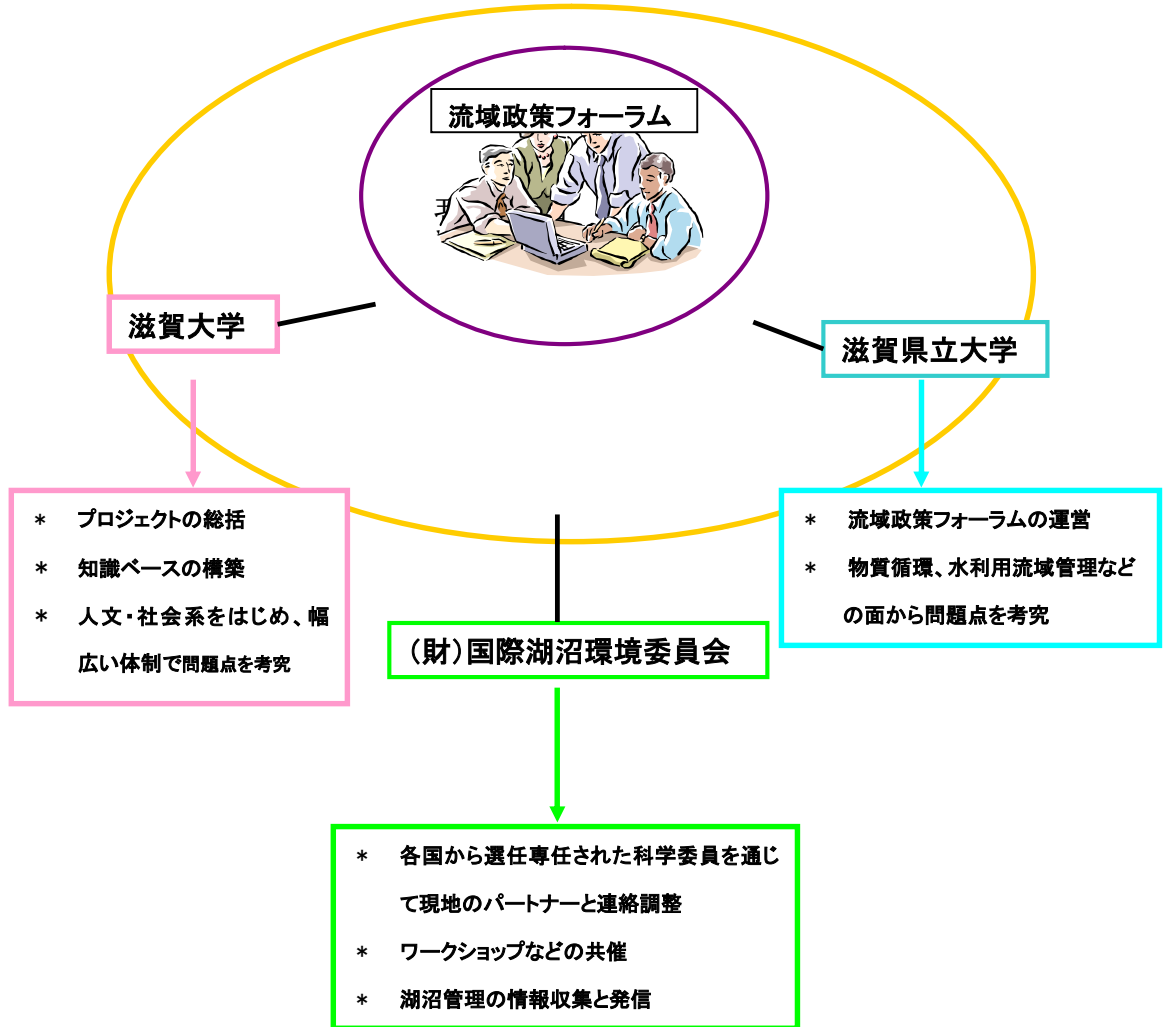


図-1 湖沼流域ガバナンスの機関連携概念図